さくら新聞

発行者：
下関深坂さくら友の会
下関市横野町 1-13-1
TEL:0832-58-3277
HP:http://h2.dion.ne.jp/~yasuokac/sakura

みなさま　明けまして おめでとうございます

下関深坂さくら友の会 会長　福冨征男

昨年三月に「さくら友の会」が設立され、会長を承って10ヶ月が過ぎ、初めての新年を迎えました。

この正月が、まさかこんなに楽しい充実した思いに満ちたされて迎えることができるなど思いもよらぬことでした。

設立はしたものの、暑い中、寒い中で草刈や清掃をするという地味できつい労働作業が中心のボランティア活動が、果たして長く続くものだろうかという不安で一杯だったからであります。

しかし、集まって来られる方は、喜んで、草刈をしたり桜の手入れをして居られます。不思議です。

いつの日か深坂の森が美しい桜に彩られるようになり、家族や市民が、賞賛の声を上げながら憩う姿が目に浮かぶからでしょうか？

周囲の人がみんな良い人だという安心感が、心に安らぎを与え、楽しくなるからでしょうか？

難しいことは分かりませんが、儲けにならないことに、汗を流して働くことを楽しいと考える変人達が、意外に多いことに驚くと共に、心強く思いました。今年もそういう仲間が更に増えるだろうと、楽しみにして居ります。

年頭のご挨拶

下関市長　江島　潔

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、夢と希望に満ちあふれる新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、安倍新政権誕生、市民の皆様の長年の悲願であった下関ナンバーの導入、日本女性会議や国民文化祭といった全国規模の大会の開催などにより、全国に合併した新しい下関をアピールすることができた年でありました。

また皆様には、「下関深坂さくら友の会」を設立していただき、心より感謝いたします。大変な心強さを感じますとともに、春、桜の下に集う市民の皆様の笑顔を今から、楽しみにして居ります。

これからも「下関らしさ」を活かしたまちづくりを進め、「下関に生まれてよかった。」「下関に暮らしてよかった。」と実感していただけるようなまちづくりを推進してまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして明るく幸せな年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

設立総会　3月19日

会員200名、参加者100名

「さくら友の会」は昨春、深坂自然の森にある「森の家」で誕生した。この日、3月19日は桜の蕾はまだ固く、小寒い朝だったが100名あまりが出席した。

設立総会は午前10時に始まり、設立準備委員会が用意した原案通りに承認され11時には和やかな雰囲気の中で無事終了した。

当日までにさくら友の会の募集に応じた会員は

団体	11口
個人会員	160口
賛助会員	26口

設立に至る経過

「下関響灘ライオンズクラブ」は、平成11年から「さくらの植樹運動」に取り組み、深坂自然の森を中心に、蒲生野交叉点から内日に至る深坂バイパスを桜街道と呼んで植樹してきた。その総数は2000本を越している。

平成16年の台風

これだけの桜の世話をクラブのメンバーだけで続けることが困難であることも分かってきた。そこへ、この年台風が次々に来て、桜の木にかなりの被害が出た。そのとき、有償の再植樹を希望するかどうかを問い合わせたところ、70％のオーナーが再植樹を希望した。このことに勇気付けられて、桜の世話をするために、また深坂自然の森を豊かな自然に溢れる市民の憩いの場にするために、ボランティア・グループを立ち上げる案が浮上した。

設立準備委員会

平成17年、オーナーに呼びかけて、その趣旨で共に設立準備委員になる人を探し、準備委員会が結成された。委員会は精力的に会合を重ね、合計9回の会合を開いて設立総会を開くに及んだ。

11月12日　定例会

この日は2班に分かれた。一班は深坂茶屋の崖上の草刈作業。他の一班は友田川のそばに会員の一人から提供された畑地の整備作業に向かった。

笹薮になって半分原野化した畑地なので、ユンボを導入し。400坪の内40坪を桜苗の仮植場とし、残りは会員に貸出す予定。

今年最後の定例会はオニギリとトン汁の昼食で締めくくられた。大鍋が三つもありました。互いに労をねぎらいながら舌鼓を打ちました。

技術資料

天狗巣病

写真の枝が混み合って黒っぽく見えるところは総て天狗巣病（テングスビョウ）に罹患した枝だ。

枝に瘤が出来、そこからたくさんの小枝が出る。桜に限った病気ではないが、桜に多い。それもソメイヨシノ病と言っても良いほど、ソメイヨシノは罹りやすい。水辺はさらに罹りやすいらしい。

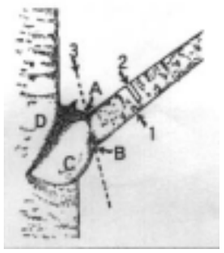
ウイルスや菌などによると言われているが、原因が一つなのか複数なのか良くわからない。薬も10やそこら無いことはないが、有効かどうかは疑問だ。

信頼できる筋では、罹患した枝を切除して焼却することと、一様に述べている。昨年、罹患部分の枝払いもして来たが、毎年根気良く続ける必要がある。

植樹したものだけでなく、既存の成木にも多い。それらは下関市でも対策を講ずると言っている。

仙台市の柴田農林高校が取り組んだ例で、毎年切除を行って、10年間で1万ヶ所から500ヶ所にまで削減しています。根気良く頑張る必要があります。

切除と塗布薬



切除のし方を実習した。枝を切るとき、ブランチカラーを大切にすることを学びました。ブランチカラーは太い枝の根元の膨らんだ部分（C）のことで、ここには枝が切られたあとの傷口を塞ぐ保護帯と養分を多く含んでいます。ブランチカラーを残して切ることが大切です。

1に切り込みを入れ枝が裂けないようにして2から切断します。更に枝の部分を残さないようにA―Bにそって3で切断します。傷口にはトップジンM（ペースト、水和剤）やカルスメイトなどを塗り癒合を促進し腐朽菌侵入を防ぐようにします。

垣根結び

初年度みんなが習得に精を出したのが垣根結びである。桜の苗を支えているのが鳥居と呼ばれる鳥居型の木の枠である。これに苗木を縛り付けるとき要求されるのが垣根結びだ。

園芸家から講習を受けるのだが、何回習っても、いざ使おうとすると忘れている。やっと思い出して結べても、固く結んだつもりが緩んでいる。無意識に結べるように自習が必要だ。

垣根結びは固く結べて解き難いのが特長だ。夫婦もこういう結び方で結んでおかねばとは、先生の言だが、先生夫婦の絆はさぞかし固いことであろう。

道具倉庫

2006年5月、下関市と交渉して、キャンプ場の倉庫の一部を、さくら友の会の道具置場として使用する許可を得ました。これは毎回、運ぶ手間が省けただけでなく、置き場所としても困っていたので大変助かりました。倉庫の中には会長さんから立派な棚を寄付して頂いています。鎌、スコップ、シュロ縄、シュロ皮、高バサミ、梯子、カケヤ、杭打ちなどが入っています。

鎌、軍手の貸出し

鎌、軍手などは、作業日当日、集合場所で貸出しています。

会費納入のお願い

会員の方は次年度会費を毎年6月20日までに納入することになっています。よろしくお願いします。郵便振込み用紙をご使用下さい。（口座 01300-4-41337）

新会員募集

深坂自然の森でさくらの手入れをするボランティアグループです。

2ヶ月に一度、日曜日の午前中に定例集会を深坂の森で開き、その活動を行っています。

趣旨には賛同するが、活動には参加できない方は賛助会員として、資金援助していただくとありがたいです。

深坂の森にさくらを植えているオーナーさんは勿論、そうでない方も歓迎します。

個人会員	2，000円
団体会員	5，000円
賛助会員	1，000円

（賛助会員は口数に制限はありません。）

あけまして
おめでとうございます
藤井石油株式会社
下関市安岡駅前1―4―8
TEL:58-0271